誰もが心地よく過ごすために

私は障がい者についてはあまり考えたことはありませんでした。でも、あることをきっかけに知ることになります。

それはある日、電車で出かけたときのことです。白杖を持った方が点字ブロックの上を歩いているのを見かけました。白杖を持った方の先を見ると、ブロックの上でスマホを見ながら立ち止まっている人がいます。どんどんと二人は近づいていき、とうとうぶつかってしまいました。

私はこれを見た瞬間、「危ない！」と心の中で思ったけれど、行動にはなかなか移せませんでした。話すことは勇気がいるし、どう声をかけたらいいのかが分からず、とまどってしまいました。

また、立っていた側は無意識な気持ちだったのだと思います。まだ障がい者に対する意識が薄れているからではないでしょうか。白杖を持っている人にとって、点字ブロックは安全に移動するための大切なブロックです。自転車などが歩道から飛び出ていて、転んでしまって大けがになる可能性があり、とても危険です。なので、点字ブロックの上に物を置いたり立ち止まったりしないように常に心がけたり、物が置いてあるのを見たらブロック外に少し動かしたりすることが大切です。そうすることで安心して目が見えにくい方が歩けるのだと思います。

しかも、ぶつかってしまう前のときには、周りの人達が白杖を持った方をチラッと見ていました。私もそうです。何もしていないのにジロジロと周りから変な目で見られてしまうのは嫌で、気分があまりよくならないと思うのに、してしまった私は反省しました。これは、障がいがあるのはかわいそうだ、大丈夫なのかが心配だ、という決めつけや思い込みをしているから起こります。自分の当たり前や普通は他の周りの人とは違います。だから自分が正しいと思って、かわいそうなことだと決めつけたりしてはいけません。健常者と障がい者はどちらも同じ人としての仲間というのには変わりないです。

私たちにできることは、困っている人を見つけたら勇気を持って声をかけたり、安心して過ごせるように環境を整え、配慮したりすることが大切です。一人ひとりが社会の中でできることを増やして思いやりの心を持つことで、誰もが心地よく過ごせるのではないのでしょうか。